

# 研究も！子育ても！

## You Can Choose Both, Research and Child-Raising !

佐藤春実 Harumi SATO

私がまだ大学院生だった頃、身近に女性の先輩がほとんどおらず、話を聞く機会がなかったので、今回、このコラムでは、私の体験談を書いてみます。少しでも参考になったら嬉しく思います。

博士課程に在学中、そしてポスドクとして勤務をしていた独身時代は、結婚しても、出産しても、研究生生活はそれまでと変わらず続けられるものと信じていました。しかし、いざ妊娠してみると、教授の大目玉をくらい、即刻ポスドクはクビになってしまいました。このときは仕事とともに研究者になる夢もすべて失った気がして、かなり凹みました。そして思いもよらず専業主婦の生活が始まりましたが、これが私にとって大変苦痛なものでした。専業主婦が不向きであることを改めて認識した私は、再び研究の世界に戻ることを決意しました。決めたとっても、今から10年以上も前のことなので、育児からの復帰支援や女性研究者支援等もなく、研究の世界に戻るための術が見当たらない私は、どうしたものかと一人悩んでいました。できることと言えば、0歳児の息子をあやしなながらインターネットで職探しするくらいで、当時、家から歩いて15分程の距離にあった関西学院大学の尾崎幸洋教授に、研究室のホームページを見て図々しくも“私を雇ってください”と突然メールを書いたのです。尾崎教授とは面識もなく、専門分野も異なっていました。第一、関西学院大学には誰一人として面識のある先生がいまいませんでしたが、心身ともに極限まで追い込まれていた私は、そんなことは全く気にしていませんでした。幸運なことに、私の無謀とも思えるメールに丁寧に返事をくださり（このときは本当に感動しました）、とにかく研究室を見学させてもらうことになりました。そして生後10ヶ月の息子を抱っこひもで抱えながら研究室を訪問すると、外国人の女性ポスドクが何人もいて、こんな研究室もあるのかと驚きました。そんな訳で、一通のメールからまた研究の世界に戻ることにりましたが、両親が遠方に住んでいるため、

育児と家事の負担が重くのしかかり、とくに時間調整には苦労しました。その後まもなく、夫が東京に転職し、育児と家事は完全に神戸に残された私の負担になりました（同時にキャンパスも遠方に移転）。もうこうなったらかなりヤケクソで、海外での国際会議は子連れで参加、国内

出張は子供同伴もしくはトンボ返りでこなし、友達や近所の人にまで息子の世話をお願いしました。福岡で開催された国際会議（IPC 2005）では、会場の受付をしていた学生さんに子供を見てもらっている間に発表したこともあります（あのときの学生さん、ありがとう！）。子供の体調が悪かったりすると、こちらの立てていた計画が総崩れし、夜中に起きては仕事をする日が続きましたが、時間の使い方も少しは上手くなり、子供に手がかからなくなってくると、保育所や学童のお迎えで研究する時間に制限があっても、研究は徐々に進むようになってきました。このような状況下でも私が研究を続けられた理由はただ一つ、研究が「好き」だからです。好きな研究に出会えたこと、研究の面白さを教えてくれた恩師の桑原信弘先生、窪田健二先生に出会えたことは大変幸運なことと思っています。

私は、これまでこのコラムを執筆されてきた大先輩方のようなスーパーウーマンではありませんが、家族の理解と、上司や同僚、研究室の学生さんの理解と助けを借りて、日々楽しく研究に取り組んでいます。皆さんどうか、研究も、家庭も、子育ても、怖がらずに飛び込んできてください。



シカゴでの国際会議（ICAVS-3）にて。元同僚（ママポスドク）達との再会。



佐藤春実 Harumi SATO

関西学院大学理工学研究科・専門技術員  
博士（工学）

群馬大学大学院工学研究科  
生産工学専攻博士後期課程修了  
専門は高分子物性  
E-mail: hsato@kwansei.ac.jp